

## (1) 豊かな自然環境の保全と活用

### 【施策の目的】

心豊かに暮らすために身近な自然環境を保全し、また、人々の活動の舞台として、歴史・文化で彩られた自然景観や色々な動植物が生きる自然環境の魅力を活用します。

### 【評価】

#### <前年度から評価実施年度上期までの成果と課題>

- ・ボランティアや地域住民が連携して活動を行うことで、自然保護に対する県民意識は年々高まりつつある。鳥獣保護については、計画的に保護区を指定している一方、農作物被害等により住民理解が得られにくくなっていることが課題である。
- ・令和7年度にラムサール条約湿地の登録20周年を迎える宍道湖・中海の認知度や利活用促進に係る県民の意識・理解が十分ではないため、両湖の価値や魅力を伝える情報発信の強化が課題である。
- ・学習施設等では、企画展や自然とふれあうイベントの開催等により自然観察や環境学習の機会創出に貢献しているが、施設の老朽化や、施設の魅力が十分認知されていないことなどから、入館者数等は減少傾向にある施設もあり、増加に向けた取組が課題である。
- ・民間団体の行う自然公園を活用した体験プログラムの造成やガイド養成などの取組を支援しているが、これらのプログラム等が来訪者の積極的な利用に結びついていないことが課題である。
- ・隠岐ユネスコ世界ジオパークでは、認知度不足等により観光入込客数などの具体的な数値に結果が表れていない。ソフト・ハード両面の受入環境整備や情報発信など、誘客数の増加に向けた取組が課題である。

#### <第2期島根創生計画初年度から評価実施年度上期までの複数年度にわたる成果と課題>

※上記で重複しない成果・課題を記載

この欄は複数年度にわたる成果と課題を記載するため令和9年度から記載

### 【今後の方向性】

#### ①自然保護に対する県民意識の向上

ボランティアの育成研修や保護活動の実施・参加への呼びかけを継続し、担い手育成と人材の掘り起こしを行う。また、生物多様性への理解促進や持続的な保全活動が可能となるよう、県民の関心度や意識の向上を図っていく。

鳥獣の被害対策と保護管理を両立するため、生息動向の把握に努め、保護活動や被害対策の事業を実施し、住民理解を得るよう努める。

ラムサール条約湿地の登録20周年を契機として、関係機関との連携及び動画配信等により情報発信の内容を充実させ、宍道湖・中海の認知度向上と利活用促進の機運を醸成する。

#### ②自然公園等での自然体験の促進、自然学習の推進

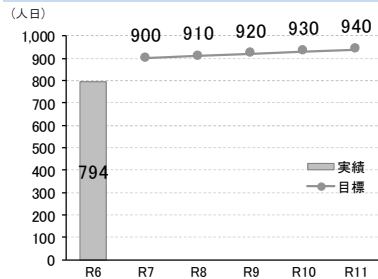
自然公園や三瓶自然館、宍道湖自然館、しまね海洋館、花ふれあい公園の各施設においては、新たな魅力を感じてもらえるよう、施設の整備や、展示・パフォーマンス等の内容進化、関係機関との連携による情報発信の強化などに取り組み、利用者の増加を図る。

### ③自然の活用の推進、快適・安心・安全に利用できる施設の整備と維持管理

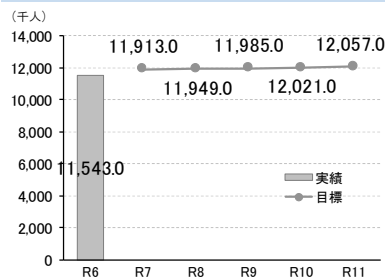
自然体験プログラムの造成、磨き上げや利用促進等の取組を誘客につなげていくため、関係機関と連携し、民間団体を支援していく。また、隠岐ユネスコ世界ジオパークでは、ユネスコによる4年に1度の再認定に向けて必要な受入環境整備を行い、認知度及び来島者の満足度向上につなげる。

#### 【施策の主なKPIの状況】

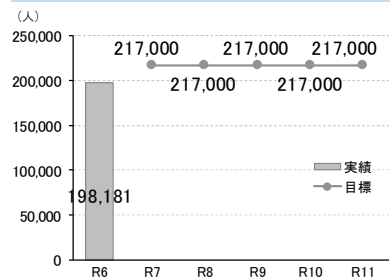
1) 自然保護ボランティアの活動日数  
(年間) 【当該年度4月～3月】



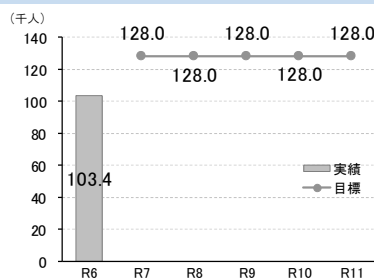
2) 自然公園の利用者数【前年度1月～  
当該年度12月】



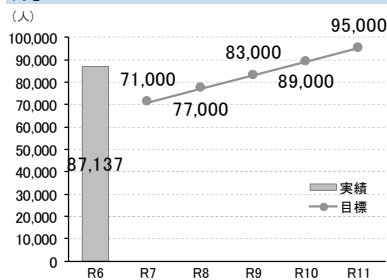
3) 隠岐ユネスコ世界ジオパーク(隠岐4町  
村)の観光入込客延べ数【前年度1月～当該  
年度12月】



4) 三瓶自然館サヒメル及び小豆原埋没  
林公園入館者数【当該年度4月～3月】



5) 県内自然公園関係市町村の外国人宿  
泊客延べ数【前年度1月～当該年度12  
月】



## 施策の主なK P I

施策の名称	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用
-------	------------------------

番号	K P I の名称	上段は目標値、下段は実績値					単位	計上分類	備考
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			
1	自然保護ボランティアの活動日数(年間) 【当該年度4月～3月】	900.0	910.0	920.0	930.0	940.0	人日	単年度値	
		794.0							
2	自然公園の利用者数【前年度1月～当該年度12月】	11,913.0	11,949.0	11,985.0	12,021.0	12,057.0	千人	単年度値	
		11,543.0							
3	隠岐ユネスコ世界ジオパーク(隠岐4町村)の観光入込客延べ数【前年度1月～当該年度12月】	217,000.0	217,000.0	217,000.0	217,000.0	217,000.0	人	単年度値	
		198,181.0							
4	三瓶自然館サヒメル及び小豆原埋没林公園入館者数【当該年度4月～3月】	128.0	128.0	128.0	128.0	128.0	千人	単年度値	
		103.4							
5	県内自然公園関係市町村の外国人宿泊客延べ数【前年度1月～当該年度12月】	71,000.0	77,000.0	83,000.0	89,000.0	95,000.0	人	単年度値	
		87,137.0							

(第2期島根創生計画に掲げる施策の【取組の方向】)

①自然保護に対する県民意識の向上

自然保護活動を支援するとともに、参加者を増やすための活動の普及・啓発を行い、しまねの豊かな自然環境を県民との協働により保全します。

②自然公園等での自然体験の促進

自然公園、中国自然歩道や地域の身近な自然等を、子どもたちの体験学習や大人を交えた生涯学習の場として活用し、自然にふれあう機会を増やします。

③自然学習施設等による自然学習の推進

三瓶自然館、宍道湖自然館、しまね海洋館などの施設を、自然や環境について学ぶための拠点施設として活用します。

④自然の活用の推進

自然体験プログラム等による観光振興やふるさと教育などにおいて、自然の景観や歴史的価値等を活用します。

⑤快適・安心・安全に利用できる施設の整備と維持管理

利用者が快適・安心・安全に自然とのふれあい体験を楽しめるように、国、市町村及び関係団体と連携して、遊歩道などの施設の整備・維持管理に努めます。

事務事業の一覧

施策の名称		VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	県立しまね海洋館管理運営事業	県民及び県を訪れる人々	日本海を中心とした水生生物を間近で見ることのできる場を創出し、自然学習の機会や遊空間を広く県民等に提供する。	427,287	400,289	しまね暮らし推進課
2	自然保護のための情報収集・整理事業	県内の自然情報	自然保護に関する情報を収集、整理し、保護対策の資料とする。	3,476	4,333	自然環境課
3	自然環境保全地域の保全事業	自然環境保全地域の自然環境	優れた自然環境の保全や多様な生態系を守る必要がある地域として県条例により指定した自然環境保全地域の自然を保全する。	1,170	2,243	自然環境課
4	レッドデータ生物に関する調査・研究・保護事業	レッドデータ生物の生息・生育環境	県民等との協働により生物多様性を確保し、健全な自然環境を次代に継承する。	14,541	21,307	自然環境課
5	県民参加による自然保護活動事業	県民や地域の自然保護団体	地域住民が主体的に取り組む自然保護活動等への参加者数、活動回数を増やし、持続可能な自然保護活動と県民の自然保護意識の醸成を図る。	5,650	5,275	自然環境課
6	自然公園管理事業	自然公園利用者	安全で快適な利用の確保を図る。	18,269	20,163	自然環境課
7	中国自然歩道管理事業	中国自然歩道の利用者	安全で快適な利用の確保を図る。	8,961	9,595	自然環境課
8	三瓶自然館サヘル等の施設管理運営事業	県民及び県を訪れる人々	自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう。	391,269	447,883	自然環境課
9	隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人	隠岐ユネスコ世界ジオパークの取組を通じて、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る。	197,143	270,977	自然環境課
10	しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す。	95,399	215,604	自然環境課
11	穴道湖・中海賢明利用推進事業	県民、民間団体等	ラムサール条約湿地である穴道湖・中海の環境を保全し、賢明利用により地域の活性化を図るとともに、両湖の認知度向上を図り地域の誇る財産として次世代へ引き継いでいく。	8,412	22,768	環境政策課
12	野生鳥獣保護対策事業	野生鳥獣	野生鳥獣が適正に生息する豊かな環境を守り育てることにより、自然環境の恵沢を享受できる県民生活の確保と地域社会の健全な発展を図る。	39,936	37,857	農山漁村振興課
13	花ふれあい公園事業	県民	・多くの県民が花にふれあい、花に学ぶ等の体験を通じて園芸及び自然に興味を抱くような公園とする。 ・花きの普及PR、消費拡大の啓発による花き産業の振興	93,085	97,661	産地支援課
14	穴道湖自然館管理運営事業	一般来館者、一般県民	島根の汽水・淡水域に生息する水生生物を中心とした展示及び調査研究を通じて、島根の豊かな自然について、楽しみながら学ぶ機会を提供する。	137,483	149,259	水産課

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課 しまね暮らし推進課

事務事業の名称		県立しまね海洋館管理運営事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び県を訪れる人々	事業費(千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	日本海を中心とした水生生物を間近で見ることのできる場を創出し、自然学習の機会や遊空間を広く県民等に提供する。		うち一般財源(千円)	427,287
令和7年度の取組内容		・水生生物等の展示、調査研究、学習機会の整備、意識啓発等を行うため、指定管理者制度により施設の管理運営を実施 ・施設の円滑で適切な管理運営のための指定管理者(公財)しまね海洋館との連絡調整、障がい者福祉施設への調剤業務委託によるスタッフの確保、老朽化した備品等の更新・修繕及び脱炭素化を図るためLED照明の導入等 ・国内でも飼育頭数の少ないシロイルカの出産や仔獣飼育のための設備修繕、リピート客拡大や県内・近県からの利用促進につなげるため、周辺の資源や事業者等と連携した新規コンテンツの作成や季節イベント等の取組を実施 ・特別支援学校等と連携したリモート校外学習の実施、首都圏での子供を対象とした遠隔体験、多様な学習の機会を提供			
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと		・施設設備、備品の計画的な更新 ・リピート客拡大に向けた近隣県(中国5県及び福岡県)への広報強化			
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	県立しまね海洋館の入館者数【当該年度4月～3月】	目標値			35.6	35.6	35.6	35.6	35.6	万人	単年度値
		実績値	34.7	36.3							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・6～7月にシロイルカ2頭の出産があり、うち1頭の子獣は8月下旬から一般公開されたことにより8～9月の2か月間の入館者数は前年度比で17,856人増、コロナ禍前R1年度比で7,025人増 ・年間入館者数は362,309人であり、36万人を超えるのは2015年以来 ・年間パスポート販売数がオープン時に次ぐ過去2番目の発行数(2,693枚) ・規制緩和により県外旅行の需要が回復したため、県内や近県からの修学旅行の受け入れの減 R6年度:7件(R3年度:208件)									

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・施設の魅力及び認知度の向上に向けて各種営業活動やJR等と連携した取組を実施し、目標入館者数を達成 ・コロナ禍からの回復に加え、長期トレンドでみた入館者数は微増傾向 ・来館や現地観察会の実施が困難な児童・生徒のため、ICT機器を活用したリモート校外学習を実施 ・一般旅行者ではなく、首都圏の子供の体験学習を受入 ・季節にちなんだ特別イベントや特設水槽の展示
課題分析	① 課題	・移動規制の緩和により、県外旅行の需要が回復したため、県内や近隣県からの修学旅行・遠足の受入数は停滞傾向 ・首都圏等の一般旅行者を対象とした営業活動の不振 ・展示内容が代り映えせず、リピート客への訴求効果を欠いている
	② 原因	・他地域で新たな水族館の開館や、リニューアルが行われており競争が激化 ・施設の老朽化及び生物の管理・展示等に必要な備品等の不足 ・パフォーマンス、企画展等の変化がやや乏しく、変わり映えがしない ・施設の認知度向上のための戦略的な広報に改善余地あり ・周辺他施設や団体等と連携した取組を実施しているものの、施設のポテンシャルを発揮できる余地あり
	③ 方向性	・施設設備の現況把握と長寿命化計画による老朽箇所の修繕 ・計画的な備品等の購入・更新 ・外来種の飼育を一部取りやめ、島根県西部の川に生息する在来種に特化した水槽の整備により地元の自然学習の機会を創出 ・シロイルカの子獣誕生に伴う、展示方法の改善及びパフォーマンスの内容進化 ・公園管理者、地元事業者等の関係団体と連携した季節イベントの実施等の一体的取組や、効果的な広報等を実施 ・エージェントへの積極的な働きかけ等により、PR先の新規開拓及び閑散期の集客対策を実施



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		自然保護のための情報収集・整理事業			
目的	誰(何)を対象として	県内の自然情報	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	自然保護に関する情報を収集、整理し、保護対策の資料とする		3,476	4,333
			うち一般財源 (千円)	3,476	4,333
令和7年度の取組内容	・自然環境保全施策を推進するために、保護すべき区域(希少な野生動植物が存在する地域、自然公園区域、保全地域等)のデータを収集・整理し更新する。 ・開発事業者等に対して、保護すべき区域に関する情報提供や指導を行う。				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点					
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	島根県の自然環境の保全についての関心度【当該年度8月時点】	目標値			66.8	67.0	67.2	67.4	67.6	%	単年度値
		実績値	64.9	66.6							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・島根県自然環境保全条例に基づく許認可件数(令和5年度 4件、令和6年度 3件) ・自然公園法及び島根県立自然公園条例に基づく許認可件数(令和5年度 43件、令和6年度 46件)									

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・自然公園区域、保全地域等を「島根県統合型GIS」上へ登録し、視覚化することで工事などの行為地が当該区域に該当するかどうかの判断が容易となった。 ・各種許認可が必要な行為に係る手続き手順等について、ホームページの整備を行ったことにより、開発事業者等による手続きの適正化が図れた。
課題分析	①課題	希少野生動植物の生息地において、開発事業者等により開発行為が行われる懸念がある。
	②原因	上記①(課題)が発生している原因 ・乱獲につながる恐れのあることから、希少野生動植物の詳細な生息地情報を一般に公開していない。
	③方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性 ・自然公園区域、保全地域等について、開発事業者等に情報提供することで、自然保護意識の醸成に努める。



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課	自然環境課
-----	-------

事務事業の名称		自然環境保全地域の保全事業			
目的	誰(何)を対象として	自然環境保全地域の自然環境	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	優れた自然環境の保全や多様な生態系を守る必要がある地域として県条例により指定した自然環境保全地域の自然を保全する		うち一般財源 (千円)	1,170
令和7年度の取組内容		島根県自然環境保全条例に基づき指定している「島根県自然環境保全地域」の適正な保全を図るため、地元の保護育成団体に保護管理を委託するとともに、自然保護指導員を配置し、巡視活動等を実施する。 ・自然環境保全地域の保全活動の内容を周知し、PRすることで、外部ボランティアの増加を図る。 ・特に地元の保護育成団体の高齢化が著しい「赤名湿地」の管理について、恒常的に外部ボランティアの支援を受けられるよう、担い手育成講習会を開催する。			
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点					
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	島根県の自然環境の保全についての関心度【当該年度8月時点】	目標値			66.8	67.0	67.2	67.4	67.6	%	単年度値
		実績値	64.9	66.6							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実											

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・自然保護レンジャーや行政機関職員等の協力により、ボランティア活動を実施することで、地元の保護育成団体の活動を支えている。
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)に支障となっている点 ・地元の保護育成団体の活動の縮小が懸念される。 ・保全スキルのある担い手の育成が進んでいない。 ・専門的知見に基づく効果的な保全活動が実施できていない。
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因 ・人口減少と高齢化により、地元の保護育成団体の担い手が減少している。 ・自然環境保全地域の周知が十分でなく、その希少性が伝わっていない。 ・専門家との連携が不十分である。
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性 ・自然保護活動の新たな担い手となり得る人材の養成研修を実施する。 ・地元の保護育成団体と自然保護レンジャー等の連携を図る。 ・自然環境保全地域の保全活動の内容を周知し、PRすることで、外部ボランティアの増加を図る。 ・自然科学系博物館からの職員派遣を受け、専門的な視点からの助言を受けることで、より効果的な保全活動を実施する。



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		レッドデータ生物に関する調査・研究・保護事業			
目的	誰(何)を対象として	レッドデータ生物の生息・生育環境	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県民等との協働により生物多様性を確保し、健全な自然環境を次代に継承する		うち一般財源 (千円)	14,541
令和7年度の取組内容	・県民の自然への関心度向上に向け、希少野生動植物の普及啓発を行う。 ・「島根県希少野生動植物の保護に関する条例」で指定している希少野生動植物について、生息・生育環境の調査を実施し、地元住民等関係者と連携した保護対策を実施する。 ・開発事業者に対して希少野生動植物に関する情報提供を行うとともに、その保護に関する指導を行う。 ・レッドデータブック改訂に向け、各動植物の分類群ごとのチームにより、作業(調査、原稿作成)を実施する。				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと					
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	島根県の自然環境の保全についての関心度【当該年度8月時点】	目標値			66.8	67.0	67.2	67.4	67.6	%	単年度値
		実績値	64.9	66.6							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2	指定希少野生動植物の指定数【当該年度3月時点】	目標値			5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	種	累計値
		実績値	5.0	5.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実											

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・指定希少野生動植物について、関係機関および地元住民を中心とする保護巡視員・団体等で巡視活動を定期実施
課題分析	① 課題	・生物多様性の損失(開発や乱獲などによる生物の種の減少・絶滅、生息地の環境劣化) ・自然の魅力を伝えられる人材や保護巡視員、自然保護レンジャーの高齢化
	② 原因	・特に若い世代において、レッドデータブック掲載種などの希少野生動植物の保護や自然環境の保全に関する関心度が高いとは言えない。
	③ 方向性	・レッドデータブックの改訂により、現状の基礎調査を実施し、指定種の追加検討や保全体制づくりを実施 ・レッドデータブックを若い世代にも閲覧してもらえるよう、紙媒体ではなく、デジタルブックとする。 ・レッドデータブックの周知などにより、県民の自然環境保全への関心度や意識の向上を図り、さらには保護巡視員や自然保護レンジャーの増加につなげる。



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		県民参加による自然保護活動事業			
目的	誰(何)を対象として	県民や地域の自然保護団体	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	地域住民が主体的に取り組む自然保護活動等への参加者数、活動回数を増やし、持続可能な自然保護活動と県民の自然保護意識の醸成を図る		うち一般財源 (千円)	5,650
令和7年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然保護団体等が行う自然観察会や自然教育セミナーへの支援を行う。</li> <li>自然保護ボランティアのための研修(自然観察指導員養成)を行い、自然保護活動の担い手の育成確保を行う。</li> <li>自然保護団体等の活動状況や支援ニーズを把握するため、アンケート調査を実施する。</li> <li>自然保護レンジャー等へ各種情報提供などを行い、巡視活動や自然保護活動への参加を促進する。</li> <li>自然保護レンジャーの研修会(交流会)を行い、活動の活性化を図る。</li> </ul>				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点	自然観察指導員の技術の向上を図るための研修会を実施する。				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	自然保護ボランティアの活動日数(年間)【当該年度4月～3月】	目標値			900.0	910.0	920.0	930.0	940.0	人日	単年度値
		実績値	864.0	794.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2	「みんなで守る郷土の自然」等地域の新規選定数(R元年度からの累計)【当該年度3月時点】	目標値			11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	地域	累計値
		実績値	9.0	11.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実											

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然保護団体等が行う自然観察会や自然教育セミナーへの支援を行うことにより、地元の活動の活性化を図った。</li> <li>自然保護ボランティアのための研修(自然観察指導員養成)を行い、自然保護活動の担い手の育成確保を行った。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みんなで守る郷土の自然」等要綱で指定した地域の現状把握等が十分できていない。</li> <li>地元の自然保護団体等の活動の縮小が懸念される。</li> <li>自然保護レンジャーからの活動報告数が減少傾向である。</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度以来、地元の自然保護団体等に対するアンケート調査を行っていない。</li> <li>人口減少と高齢化により、地元の自然保護団体等の担い手が減少している。</li> <li>自然保護レンジャーからの活動報告は任意である。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元の自然保護団体等にアンケート調査を実施し、適切な支援につなげるとともに、新たな支援方法を検討する。</li> <li>自然保護レンジャーへ活動報告の提出を依頼する。</li> <li>自然保護レンジャーの交流の場を設けることで、活動の活性化を図る。</li> </ul>



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課	自然環境課
-----	-------

事務事業の名称		自然公園管理事業			
目的	誰(何)を対象として	自然公園利用者	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	安全で快適な利用の確保を図る		18,269	20,163
			うち一般財源 (千円)	18,269	20,163
令和7年度の取組内容	・県内の自然公園(国立公園、国定公園、県立自然公園)に県が整備した施設(遊歩道、駐車場、公衆トイレなど)について、地元市町村に除草、清掃やバトロール等、施設の日常管理を委託 ・快適な利用ができるよう老朽化施設の修繕など維持管理を行うとともに、自然災害などによる倒木などの処理を行い、安心・安全な利用ができるよう維持管理に努める。				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点					
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	自然公園の利用者数【前年度1月～当該年度12月】	目標値			11,913.0	11,949.0	11,985.0	12,021.0	12,057.0	千人	単年度値
		実績値	11,842.0	11,543.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		島根県観光動態調査 観光入込客延べ数【R5 30,194千人地点】→【R6 29,860千人地点】(対前年比:-1.1%)									

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・市町村と連携して危険が生じた箇所を速やかに規制したり、施設の老朽化の状況や利用頻度を踏まえて、緊急性の高いところから修繕や倒木処理などを行い、利用者の安全を確保した。 ・眺望を阻害する立木の伐採や除草作業など、景観の美化を行うことで、自然公園の快適性や魅力向上を図った。
課題分析	① 課題	・利用者や自然保護レンジャー等から、施設の破損や不具合、自然災害による倒木や草木の繁茂などについて多数の情報提供や苦情がある。 ・草木の繁茂により眺望が阻害されているところが多数あり、全てのニーズに対応できていない状況である。
	② 原因	・全体的に施設の老朽化が進んでいる。 ・大雨、大雪などの突発的な自然災害による倒木などが発生しており、事業費が十分でない。
	③ 方向性	・適正な維持管理、施設修繕、倒木処理などを行う予算の確保に努める。 ・管理を委託している市町村と連携して管理運営をしていく。 ・各施設の老朽化の状況や利用度等から判断し、緊急度の高い箇所から修繕を行う。



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課	自然環境課
-----	-------

事務事業の名称		中国自然歩道管理事業			
目的	誰(何)を対象として	中国自然歩道の利用者	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	安全で快適な利用の確保を図る		うち一般財源 (千円)	8,961
令和7年度の取組内容	・県内の中国自然歩道のうち、県が整備した主にモデルコースとなっている歩道区間、施設について、地元市町村に除草、清掃やパトロール等、施設の日常管理を委託 ・快適な利用ができるよう老朽化施設の修繕など維持管理を行うとともに、自然災害などによる倒木などの処理を行い、安心・安全な利用ができるよう維持管理に努める。 ・パンフレットの作成・配布、県ホームページを活用して利用促進に向け情報発信をする。				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点					
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	中国自然歩道の利用者数【前年度1月～当該年度12月】	目標値			446.0	464.0	482.0	500.0	518.0	千人	単年度値
		実績値	410.9	371.2							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		島根県観光動態調査 観光入込客延べ数【R5 30,194千人地点】→【R6 29,860千人地点】(対前年比:-1.1%)									

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・市町村と連携して危険が生じた箇所を速やかに規制したり、施設の老朽化の状況や利用頻度を踏まえて緊急性の高いところから修繕や倒木処理などを行い、利用者の安全を確保した。 ・眺望を阻害する立木の伐採や除草作業など、景観の美化を行うことで、中国自然歩道の快適性や魅力向上を図った。
課題分析	① 課題	・利用者や自然保護レンジャー等から、施設の破損や不具合、自然災害による倒木や草木の繁茂などについて多数の情報提供や苦情がある。 ・草木の繁茂により眺望が阻害されているところが多数あり、全てのニーズに対応できていない状況である。
	② 原因	・全体的に施設の老朽化が進んでいる。 ・大雨、大雪などの突発的な自然災害により倒木などが発生しており、事業費が十分でない。
	③ 方向性	・適正な維持管理、施設修繕、倒木処理などを行う予算の確保に努める。 ・管理を委託している市町村と連携して管理運営をしていく。 ・各施設の老朽化の状況や利用度等から判断し、緊急度の高い箇所から修繕を行う。



## 事務事業評価シート

### 1 事務事業の概要

担当課	自然環境課
-----	-------

事務事業の名称		三瓶自然館サヒメル等の施設管理運営事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び県を訪れる人々	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう		うち一般財源 (千円)	391,269
令和7年度の取組内容	1. 三瓶自然館及びその附属施設について、指定管理者と協力して以下の事業を実施 ①企画展(春、夏、冬の3回)・自然観察会・天体観察会の開催 ②各種イベントを通じて自然に対する理解を深める取組の実施 ③島根県の自然系博物館としての調査研究 ④各種広報活動(PR活動、新聞への寄稿、CATV番組の提供など) ⑤三瓶自然館及びその附属施設の整備と維持管理 2. 小豆原埋没林の保存対策 ①保存状態のモニタリング				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと					
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	III-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

### 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	三瓶自然館サヒメル及び小豆原埋没林公園入館者数【当該年度4月～3月】	目標値			128.0	128.0	128.0	128.0	128.0	千人	単年度値
		実績値	117.2	103.4							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・環境教育及び環境学習の提供として各団体や学校等の要請に応じて講師派遣を実施 R6年度:84件 2,801名(R5年度:70件 2,396名)									

### 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・小豆原埋没林公園大展示棟の魅力アップ及び利用者の安全確保のため、劣化した照明機器のLED化を行った。 ・三瓶自然館における企画展の内容をより深く理解してもらうための関連イベントや、季節毎の自然観察会、体験イベント等を開催した。
課題分析	①課題	・来館者数が減少傾向にある。 ・施設の認知度が不十分である。 ・埋没林の学術的価値が十分に伝えられていない。
	②原因	・県内及び近隣県他施設と集客で競合している。 ・施設設備の老朽化 ・施設の認知度向上のための戦略的な広報が不十分である。
	③方向性	・指定管理者と連携し、多言語化及びリニューアルした展示施設等を活用しながら、島根の自然の魅力と価値を分かりやすく解説する施設として認知度向上及び来館者の増加に向けて取り組む。 ・施設設備の現状把握を行い、長寿命化計画による老朽箇所の修繕等や備品設備の計画的な更新を行う。 ・施設の特徴、魅力を十分に伝えるため、観光協会等と連携したPRや、周辺の資源等を活用した効果的な広報等を実施する。



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業				
目的	誰(何)を対象として	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人		事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	隠岐ユネスコ世界ジオパークの取組を通じて、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る			うち一般財源 (千円)	197,143
令和7年度の取組内容	(一社)隠岐ジオパーク推進機構と連携し、地域振興、観光振興、保全保護、調査研究、教育・人材育成のための取組を実施 ①隠岐ジオパーク推進機構の運営及び事業に係る経費の一部負担 ②隠岐ユネスコ世界ジオパーク内のジオサイトの施設整備等 ③ジオパーク拠点施設・中核施設の整備を支援(隠岐の島町、海士町)					
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点	・来島者の安全性の確保及び満足度向上のため、ジオサイトの誘導標識等を整備					
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	III-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策		

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	隠岐ユネスコ世界ジオパーク(隠岐4町村)の観光入込客延べ数【前年度1月～当該年度12月】	目標値			217,000.0	217,000.0	217,000.0	217,000.0	217,000.0	人	単年度値
		実績値	200,753.0	198,181.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・(一社)隠岐ジオパーク推進機構ホームページのPV数【当該年度4月～3月】:R5 135,807、R6 159,934 ・隠岐4町村の外国人宿泊客延べ数【前年度1月～当該年度12月】:R5 552人、R6 995人(県観光動態調査)									

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・令和7年度のユネスコ世界ジオパークの再認定に向けて、令和4年度の再認定審査における指摘事項(地質遺産の保全活用計画の策定、ジオサイトの整備、地質遺産の教育促進等)はいずれも対応中または対応済 ・隠岐DMO組織の運営支援を実施
課題分析	①課題	・隠岐ユネスコ世界ジオパークの認知度が不十分である。 ・隠岐での滞在を延ばすような体験コンテンツやツアーなどが不足している。 ・令和4年度に(一社)隠岐ジオパーク推進機構(隠岐DMO)が立ち上がったところであり、新たな推進体制をベースとした業務の充実及び事務局運営体制の強化を図ることが必要
	②原因	・隠岐ユネスコ世界ジオパークの魅力ある自然景観や歴史文化などが観光資源として活用できていない。 ・災害等により施設の利用に支障があるため、活用できないジオサイトがある。 ・ホームページ、インターネット、SNS等を利用した情報発信が不十分
	③方向性	・(一社)隠岐ジオパーク推進機構が中心となり、4町村や県など関係機関と連携し、隠岐ユネスコ世界ジオパークの魅力向上のための環境教育・ジオサイト整備や、来島者の増加及び満足度向上のための観光誘客の取組の強化など具体的な事業に取り組む。 ・隠岐ユネスコ世界ジオパークの認定継続に向けて、(一社)隠岐ジオパーク推進機構と連携し、必要な施設整備等を計画的に実施する。



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課	自然環境課
-----	-------

事務事業の名称		しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業			
目的	誰(何)を対象として	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す		うち一般財源 (千円)	95,399
令和7年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然公園を活用した誘客促進補助金により、自然体験プログラムの造成や拡充、ガイド養成などの民間事業者等の取組を支援</li> <li>県内の自然公園の魅力発信のため、自然体験動画をを用いた国内外へのプロモーションを実施</li> <li>受入環境の向上のため、国立公園内の遊歩道や標識等の再整備、景観を阻害する樹木の伐採等を実施</li> <li>満喫プロジェクト推進事業の連携強化とレベル向上のため、活動団体等を対象とした研修会の開催</li> </ul>				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点	県内の自然公園の認知度向上のため、しまねの自然公園満喫プロジェクトホームページの内容拡充に取り組む。				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	III-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	III-3-(1) 稼げるまちづくり

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類	
1	県内自然公園関係市町村の外国人宿泊客延べ数 【前年度1月～当該年度12月】	目標値			71,000.0	77,000.0	83,000.0	89,000.0	95,000.0	人	単年度値	
		実績値	59,321.0	87,137.0								
		達成率	-	-	-	-	-	-	-			-
2		目標値										
		実績値										
		達成率	-	-	-	-	-	-	-			-
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実												

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然公園を活用した体験プログラムの造成などの取組を行う10事業者を支援し、県内自然公園への誘客促進を図った。</li> <li>自然公園等の遊歩道の整備等を実施し、受入環境の向上が進んだ。</li> <li>トレッキング、マリンアクティビティ、サイクリングを中心とした自然体験動画を作成し、YouTube広告を用いて国内外に発信することで、県内の自然公園の認知度向上につなげた。</li> <li>しまねの自然公園満喫プロジェクトホームページのリニューアルを行い、国内外からの来訪者への情報提供の充実を図った。</li> </ul>
課題分析	① 課題	県内自然公園で行われる自然体験プログラム等が来訪者に十分に活用されていない。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金の制度が、対象となる事業者等に十分に認知されていない。</li> <li>来訪者が地域を周遊・長期滞在して楽しめる自然体験プログラムが不足している。</li> <li>自然体験に興味を持っている人に対して県内自然公園を楽しむための具体的な情報が十分に届いていない。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然体験プログラムの造成、磨き上げや利用促進等、民間団体の取組を誘客につなげていくため、関係機関と連携し、補助金による支援を推進する。</li> <li>自然公園の効果的なPRや広報を行い、国内外への情報発信を強化する。</li> <li>自然公園の魅力及び利便性向上並びに来訪者の安全確保のため、施設修繕等の受入環境の整備を行う。</li> </ul>



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課	環境政策課
-----	-------

事務事業の名称		宍道湖・中海賢明利用推進事業				
目的	誰(何)を対象として	県民、民間団体等		事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	ラムサール条約湿地である宍道湖・中海の環境を保全し、賢明利用により地域の活性化を図るとともに、両湖の認知度向上を図り地域の誇る財産として次世代へ引き継いでいく。			8,412	22,768
				うち一般財源 (千円)	2,905	4,001
令和7年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民が参加する人の五感による湖沼環境評価や小中学生を対象とした流入河川調査を実施し、宍道湖・中海への興味関心と環境保全意識の向上を図る。</li> <li>・ラムサール条約の理念である「保全再生」「賢明な利用」、これらを促進する「交流学习」を推進するため、沿岸市での一斉清掃や子どもラムサール交流会、パネル展示等を実施するとともに、ラムサール条約登録20周年記念イベントや世界湖沼の日記念イベント等の啓発事業を実施する。</li> <li>・コウノトリ、トキをはじめとして多様な生物が生息する環境の保全再生及び地域活性化に取り組むことを目的に、民間団体や関係自治体を構成員とする協議会を設置し、協議会の取組を支援する。</li> </ul>				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラムサール条約登録20周年記念イベントや世界湖沼の日記念イベント等の啓発イベントを実施する。</li> <li>・イベント周知等にはSNSを活用した情報発信を行う。</li> </ul>				
1	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	3	上位の施策		
2	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	4	上位の施策		

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類	
1	宍道湖・中海賢明利用スポット来訪者数【前年度1月～当該年度12月】	目標値			355,000.0	361,000.0	367,000.0	373,000.0	379,000.0	人	単年度値	
		実績値	329,093.0	349,266.0								
		達成率	-	-	-	-	-	-	-			-
2		目標値										
		実績値										
		達成率	-	-	-	-	-	-	-			-
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>①五感による湖沼環境調査 モニター数(人・団体) R4:95 R5:93 R6:82 と推移</li> <li>②小中学生等による流入河川調査 実施団体数(団体) R4:35 R5:33 R6:29 と推移</li> <li>③中海宍道湖一斉清掃 参加人数(人) R4:6,048 R5:7,033 R6:4,606 と推移</li> <li>④ラムサール関連イベント 実施イベント数(回) R4:2 R5:2 R6:2 と推移</li> <li>⑤大型水鳥関連イベント 実施イベント数(回) R4:4 R5:9 R6:16 と推移</li> <li>⑥賢明利用関連普及啓発 広報数(回) R4:13 R5:9 R6:12 と推移</li> </ul>										

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・中海・宍道湖一斉清掃など島根・鳥取両県連携事業や、宍道湖・中海の魅力伝えるパネル展示会による情報発信などにより、スポット来場者数は増加傾向にある。
課題分析	①課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)支障となっている点
	②原因	上記①(課題)が発生している原因
	③方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

農山漁村振興課

事務事業の名称		野生鳥獣保護対策事業			
目的	誰(何)を対象として	野生鳥獣	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	野生鳥獣が適正に生息する豊かな環境を守り育てることにより、自然環境の恵沢を享受できる県民生活の確保と地域社会の健全な発展を図る。		うち一般財源 (千円)	39,936
令和7年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>野生鳥獣の保護を図り、自然の恵沢を享受できる環境を整えるために、鳥獣保護区等の指定をする。</li> <li>野生鳥獣の生態や行動等を考慮した対策を講じるため、鳥獣専門指導員を配置し、地域での対応や県民への啓発等を行う。</li> <li>野生鳥獣の保護管理と有効な被害対策や狩猟の適正化を図るために、野生鳥獣の生態や行動等の調査を行う。</li> <li>鳥獣保護行政の円滑な推進のために、鳥獣保護管理員を配置する。</li> <li>鳥獣保護に対する理解を深めてもらうため、野鳥観察会、愛鳥週間の取組、傷病鳥獣の救護などを行う。</li> </ul>				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥獣保護区設定の説明会において、引き続き鳥獣保護に対する住民理解を得るよう努める。</li> </ul>				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	鳥獣保護区指定箇所【当該年度3月時点】	目標値			80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	箇所	累計値
		実績値	80.0	80.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>■鳥獣保護思想の意識啓発 ○野鳥観察会の開催(年2回:参加者のべ51人) 愛鳥週間のポスター募集(応募:499点) ○傷病鳥獣の救護事業(R6:8件)</li> <li>■出雲北山地域のニホンジカの管理:適正水準の180頭に向け、504頭の個体数調整捕獲を実施</li> </ul>									

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥獣保護思想普及啓発活動や傷病鳥獣の救護、保護管理のための生息状況の把握、分析・検討等の取組を通じ、鳥獣保護に対する理解が得られ、計画どおりの保護区設定ができた。</li> <li>出雲北山地域のニホンジカについて、農業者等への指導支援を目的に、農業者団体を主体とする被害対策連絡会議を実施し、今後の被害対策について理解を得た。</li> </ul>
課題分析	①課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥獣保護区周辺での野生鳥獣による農作物被害が発生し、保護区の設定についての住民理解が得られにくくなっている。</li> <li>出雲北山地域のニホンジカの保護・管理について、第二種特定鳥獣(ニホンジカ)管理計画における管理目標頭数である180頭に達していない。</li> </ul>
	②原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>設定した鳥獣保護区周辺の荒廃した里山や耕作放棄地に定着した野生鳥獣の出没が増加。</li> <li>出雲北山地域のニホンジカについては生息頭数が減少し、捕獲効率が落ちている。</li> </ul>
	③方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥獣保護区設定の説明会において、引き続き鳥獣保護に対する住民理解を得るよう努めるとともに、鳥獣による農作物被害に対して捕獲等の被害防止対策を推進する。</li> <li>鳥獣保護区の管理や鳥獣思想の普及啓発のため、鳥獣保護管理員を委嘱する。</li> <li>出雲北山地域のニホンジカについては効率的な捕獲方法・体制を検討し、管理計画における管理目標頭数180頭の達成を目指す。</li> </ul>



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課	産地支援課
-----	-------

事務事業の名称		花ふれあい公園事業			
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	・多くの県民が花にふれあい、花に学ぶ等の体験を通じて園芸及び自然に興味を抱くような公園とする ・花きの普及PR、消費拡大の啓発による花き産業の振興		うち一般財源 (千円)	93,085
令和7年度の取組内容	花ふれあい公園の指定管理者に管理業務を委託し、以下の取組を実施 ・花きに親しむ機会の提供 ・公園(研修室含む)の利用促進 ・公園の施設設備維持の管理				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点	・県有施設との連携事業を展開し認知度向上を図る ・専門家による樹木診断で来園者の安全向上を図る ・島根の花イベント展示で情報発信・普及啓発を図る				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類	
1	販売額1,000万円以上の中核的経営体の育成数(国の統計調査結果(R2)に県の単年度実績を加算)【当該年度4月~3月】	目標値			790.0	843.0	896.0	949.0	1,000.0	経営体	単年度値	
		実績値	689.0	707.0								
		達成率	-	-	-	-	-	-	-			-
2		目標値										
		実績値										
		達成率	-	-	-	-	-	-	-	-	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		県内産の花苗、鉢花の植栽利用率99.5%(R6年度実績報告書より)										

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・春期の開園20周年記念イベント、県オリジナルアジサイ「月うさぎ」の令和6年4月からの出荷で集客効果があった。(令和6年度入園者数:70,706人(前年度比14.5%の増)) ・県の主力花き(キク、ばら、トルコギキョウ、ポタン、アジサイ、シクラメン)の展示、紹介等のイベント回数は7回の状況。(昨年度と同等)
課題分析	①課題	・企画展に合わせ施設内での販売により県内産花きの消費に取り組んでいるものの、花きの担い手育成に直接的に寄与しない。 ・施設の経年劣化による修繕必要箇所の増加。 ・月により入園者数の変動がある。
	②原因	・公園の利用で県民が花に親しむ機会の提供が図られているものの、花き生産者の研修や展示場所としての利用が少なく、担い手育成につながる機会が少ない。 ・建設から年数を経ていることから、屋内展示施設であるガラス室棟に係る修繕箇所が増え続けている。 ・屋外展示を主とした施設であるため、入園者数が天候(降雨、気温等)の影響を受けやすい。
	③方向性	・花き品評会での利用や花き生産者の研修の場であることについて、SNS等を利用した情報発信を強化。 ・県のオリジナル品種等に係るアンケート調査結果の情報提供や花きの消費拡大PR強化による島根の花きの価値の底上げと、それに伴う販売額の増加。 ・施設設備の要修繕箇所の現状把握と長寿命化計画への反映による計画修繕の実施。 ・屋内展示のPRなど季節や天候に応じた施設での過ごし方(しまエコスポット)をSNS等で発信していく。



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

水産課

事務事業の名称		宍道湖自然館管理運営事業			
目的	誰(何)を対象として	一般来館者、一般県民	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	島根の汽水・淡水域に生息する水生生物を中心とした展示及び調査研究を通じて、島根の豊かな自然について、楽しみながら学ぶ機会を提供する。		うち一般財源 (千円)	137,483
令和7年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者が隣接地で運営する宍道湖グリーンパーク(鳥や昆虫の観察等)と連携した活動の推進及び情報の発信</li> <li>関係機関と連携した教育普及プログラムの開発協議の実施</li> <li>今後の展示設備の在り方について、指定管理者と連携した施設整備及び改修の検討</li> </ul>				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に新たな展示を導入することで展示の魅力を増進。</li> </ul>				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	ゴビウス入館者数【当該年度4月～3月】	目標値			140,000.0	140,000.0	140,000.0	140,000.0	140,000.0	人	単年度値
		実績値	141,969.0	135,120.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>特別展・・・R6年度:年3回実施(R5年度:年3回)</li> <li>トピック展示の更新・・・R6年度:延べ10回(R5年度:延べ24回)</li> <li>年間パスポート購入者数・・・R6年度:3,407人(R5年度:3,440人)</li> <li>学校、公民館等への講師派遣・・・R6年度:12件320人(R5年度:14件341人)</li> </ul>									

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>県や指定管理者による積極的な広報活動を行い、令和6年度のごびウス入館者数は前年度より5パーセント程度減であったが、令和7年3月には来館者数が300万人に達した。</li> <li>年間パスポート会員限定のイベント開催や季節毎のトピック展示を頻回更新するなど、リピーターの満足度向上に向け創意工夫を行った。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>人件費や資材・燃料費の高騰により、ランニングコスト(修繕費、光熱費)が嵩んでいる。</li> <li>団体利用時に使用できるレクチャールームが狭いため、団体受け入れを制限しなければならない状況が続いている。</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設・設備全体の老朽化、特に給排水・電気設備などの老朽化が著しく、緊急修繕を要する箇所が増加している。</li> <li>見学者用通路のバリアフリー化未対応</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンから20年以上経過しており、施設の老朽化が著しいため、大規模改修などを含め今後の修繕対応を検討</li> <li>施設設備の老朽化による修繕箇所の把握(特に給排水、電気や機械設備)、長寿命化計画に基づく修繕</li> <li>水辺の生き物に対する興味関心や学習意欲の高揚を図るため、特別展、トピック展示やキッズコーナーなど定期的に新たな展示を導入、関係機関との連携及び地域住民、ゴビウスサポーター(ボランティア)との関係強化を図り、教育普及サービスの向上を図る。</li> </ul>

